

**わがまちの
「ちよっといい話」**
NO. 11
「道徳のまち笠松」推進会議
(笠松町教育文化課)

○総合的な学習で

小中学校では各教科で学んだことを生かして学習する「総合的な学習の時間」があります。ここでは、笠松小学校四年生の取り組みを紹介します。

四年生の子ども達は、昨年十一月から「グッデイすぎない」を三回訪れました。地域のお年寄りとかかわりを深めるためです。グループごとに紙人形や紙芝居、歌、折り紙、ゲームなど一緒に活動できる準備をととのえての訪問です。

○共に取り組む！

「紙人形や紙芝居では、耳の遠い方にも聞いてもらえるよう大きな声で話しました。皆さんが笑いながら見ていただいたのがうれしかった。」「いっしょに折り紙を折ったりもした。」「肩た



**共に過ごし 心を開き
心をつなぐ！**

たきをしたなら、すぐくうれしそうにしてくれました。もつと気持ちよいように肩をたたいてあげました。」「歌を歌う時、ぼくの手拍子に合わせてようとしてくれました。うれしかった。」「お年寄りの心が子ども達の心に響いた瞬間です。」

○人とつながりを育む？

子ども達にとって校外での活動は、地域社会へのデビューです。とても緊張します。ことに、おじいちゃん方と話すのはむずかしいです。しかし、子ども達の取り組みに対するお年寄りのほほえみやうなずきが、子ども達の心を開き、心と心をつなぎます。人として大切なことを感じとっていきます。

○新たな動きが芽生える

この訪問を終え、しばらくたったあ

る日、この取り組みに参加したAさんは、施設に入所しているひいばあちゃんのお見舞いに行きました。その時、所内で、先日一緒に取り組んだおじいちゃんに出会い、言葉を交わしました。「ここは、楽しいですか。」「うん、楽しいですよ。」共に過ごしたひと時がいさつを交わし合い、言葉をかけ合う動きにつながったのです。新たに世代を越えた、つながりが生まれてきます。



共に取り組む子ども達とお年寄り
（「グッデイすぎない」で）